

ななかまど

NANAKAMADO

Hokkaido Information University Magazine

Volume 80

Published on September 20, 2023



特集

目標へ向かって探求し続ける学生たち

開 催

6月16日(金)、17日(土)に体育祭が開催されました。今年度は全5種目の競技を2日間に分けて開催し、約400名の学生が参加。どの競技も大変盛況で、学生たちは優勝を目指して輝いていました。

そして体育祭終了後には5年ぶりとなるジンギスカン交流会を開催。体育祭で疲れた身体をジンギスカンで回復していました。

学生実行委員会メンバーに以前のジンギスカン交流会の経験者がいない中、より楽しくなるにはどうしたらいいか試行錯誤を重ね、自分たちらしい交流会を模索。結果、大成功で会を終えることができました。





体育祭

ジンギスカンも復活!

各種目順位

Softball ソフトボール

- 1位 大猿のジョージ
- 2位 チーム名募集中

Boccia ボッチャ

- 1位 シン・スタッフ倶楽部
- 2位 team 隼田ゼミ

Badminton バドミントン

- 1位 金色の阿頼沼ボオ
- 2位 L字

Table tennis 卓球

- 1位 フィッシュまんじゅう
- 2位 らうんじべあーず

Dodgeball ドッジボール

- 1位 VIENTO
- 2位 杉澤ゼミ

各種目の1位と2位のチームには食堂で使用できる食券と賞状が授与され、授賞式ではそれぞれのチームが喜色満面に溢れていました。

学校行事の要!

学生実行

STUDENT
COUNCIL
ROOM



今年度の体育祭にご参加いただいた選手の皆様、審判を務めていただいた各サークルの皆様のおかげで、体育祭と5年ぶりに開催されたジギスカン交流会を無事に終えることができました。前年度の参加者の300名を超え、400名の方が競技に参加していただき、大変盛り上がりました。心から感謝申し上げます。また、今年度の体育祭は、2年生の実行委員が中心となり企画や運営を進め、1年生も経験がない中で率先して取り組んでくれました。本当にありがとうございます。

10月7日(土)、8日(日)には蒼天祭が開催されます。昨年よりも学生実行委員会のメンバーが増えているので、例年とは違うイベントができるのではないかと考えております。さらに、学内の装飾や外部への広報活動などにも、より力を注いでいきます。

全ての要望を叶えることは難しいですが、より多くの方々に楽しんでいただけるよう、より良い企画や運営を追い求めていきたいと考えています。

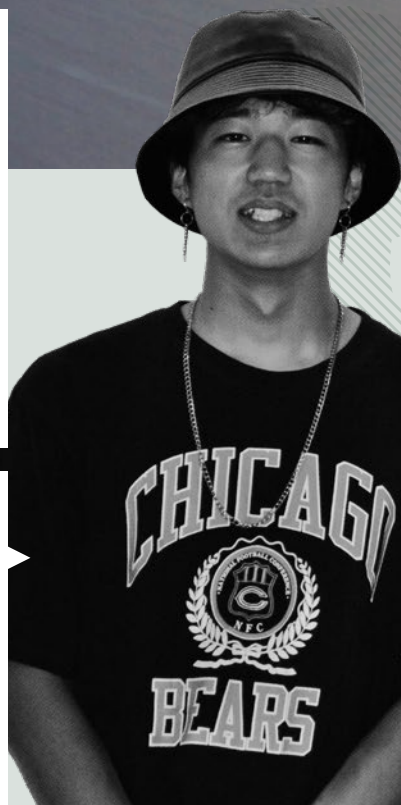
体育祭の反省を踏まえ、蒼天祭の成功に向けて全力を尽くしますので、ご支援をいただけますと幸いです。

私が学生実行委員会に入った頃はコロナ禍で行事が何もできない状況でした。そのため、新しく作り直すところからスタートしたのですが、当時は行事を円滑に進めることしか頭になく、周りのことや参加者に楽しんでもらえるような行事の運営をすることがあまりできていなかったように思います。

その結果、残念ながら大学祭準備の大変さを理由に実行委員を辞めてしまう人もおり、そうしたことがなくなるように、今年はいこれまでの経験や反省を踏まえ、早めに準備を行い、昨年よりも来場者にも実行委員にも楽しんでもらえる内容にすることを念頭に置いて活動しています。また、新しい仲間も増えたことでより意見が活発に出され、とても実行委員会内の雰囲気も良くなってきていると実感しています。

次の目標としては10月に開催される「蒼天祭」ですね。今までの蒼天祭よりも盛り上がり、来年も来たい!と思われるような運営をしていきたいです。

委員会の雰囲気をさらに良くして実行委員をもっと増やし、楽しく、やりがいを感じられる活動となるよう、より良い運営方法を日々模索しています。



学生実行委員会 委員長
やまざき まゆ
山崎 菜柚 情報メディア学科3年

学生実行委員会 副委員長
えがしら しゅうと
江頭 秀斗 システム情報学科3年

委員会

今年は多くの1年生が加入し、50名以上となった学生実行委員会。そんな実行委員の活動の様子をお届けします。

また、学生実行委員長と副委員長には今後の委員会活動の方針や目指すべき目標などについて伺いました。



新しい学生実行委員会室では実行委員が毎日活動しており、体育祭や蒼天祭といった行事に向けての準備を行っています。また、実行委員同士の交流も活発に行われています。

活動範囲は多岐にわたる!

体育祭では、受付、審判、飲料配付、運営から参加者のサポートに至るまで、多くの実行委員が幅広く活動。

実行委員自らが企画した、学生の交流を深めるイベントも開催していました。また、2チームに分かれてのドッジボールや障害物競争、クイズ大会で大いに盛り上がっていました。



HIU Lounge

実行委員会室は、新たに改修された厚生棟2階「HIUラウンジ」の中にあります。

HIUラウンジは多くの学生が利用できるよう、会議のできる長机や個人で作業しやすいスペースなど様々な用途で利用できる空間となっています。



情報メディア学科 プロジェクトトライアルII



2023年6月1日(木)に、「プロジェクトトライアルII」の作品展示会が学内で開催されました。会場には全14チームの作品が展示され、当日は制作チームのメンバーから作品の説明を受けながら、たくさんの見学者が作品の世界を体感しました。

本講義は、学生がチームを組んで、自ら発案のプロジェクトを半年間かけて経験する講義です。ゲーム、アプリ、プログラム、Webページ、映像コンテンツといった作品の企画、制作、発表までの一連の流れをチーム・プロジェクトとして完遂する過程で、企画力、制作スキル、チームワーク、プロジェクト管理、そしてプレゼンテーション能力を養います。

最優秀賞 & 学生賞(学生による投票で決まる賞)



チーム名 Nexus タイトル INFIGHT of TEACHERS

本学教員がキャラクターになっている格闘ゲーム。

軟式野球部 春季リーグ2部優勝

本学軟式野球部が令和5年度北海道地区大学軟式野球連盟主催春季リーグ2部で優勝を果たし、今秋から1部リーグへ昇格しました。その栄誉を称え、本学からの学生表彰が行われ、記念品として本学からキャッチャー防具一式と、同窓会から軟式ボール15ダースが贈呈されました。

軟式野球部は昨年の秋季リーグ優勝で2部昇格したばかりであり、快進撃を続けています。1部昇格は、1989(平成元)年の部発足以来初の快挙。勢いに乗る軟式野球部は、次回は1部での優勝を目指します。

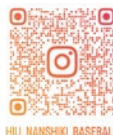


システム情報学科 3年
うえはら ぶんた
上原文太 さん(主将)

チームメンバーひとりひとりが、質の高い練習をしようという気持ちを持つようになってきたことが勝利につながったと思います。チームの雰囲気はすごく良いです。このまま1部で優勝し、全国大会を目指します!



北海道情報大学
軟式野球部
公式X(Twitter)



北海道情報大学
軟式野球部
公式Instagram



にできることを。

学生活動

ITや医療、デザインを学ぶ北海道情報大学の学生たちは、それぞれの目標や夢を追い求め、日々挑戦と研鑽を重ねながら活動しています。

国際カンファレンス「RubyKaigi 2023」にて研究発表

プログラミング言語「Ruby」の国際カンファレンスである「RubyKaigi」。澤井 優真さん(システム情報学科3年生)の研究が採択され、2023年5月11日から13日まで、長野県(まつもと市民芸術館)で行われた「RubyKaigi 2023」で発表を行いました。

テーマ

Ruby.wasmを用いたChrome拡張機能の作成

研究概要

Chrome拡張機能とはChromeブラウザにインストールできるアプリです。今までは拡張機能の開発にJavaScriptを使わなければならない、言語に制約がありましたが、最近はWebassemblyを利用してJavaScriptに囚われない開発ができます。本発表ではまだまだ敷居が高いWebassemblyを手軽に扱えるよう、フレームワークを作成、公開するまでの流れを発表しました。



今回の発表は多くの方から反響をいただきましたが、アイデアを考えた当初はここまで大きく取り上げられるとは思いませんでした。

RubyKaigiのような大きなイベントに提出するのはかなりのプレッシャーがありましたが、それでも採用されたのは挑戦して行動したからだと思っています。



澤井 優真さん

医療情報学科 臨床工学専攻「臨床工学技士(国家試験)」合格

臨床工学専攻の学生19名が、2023年臨床工学技士国家試験に合格(合格率90.5%)しました。臨床工学技士は医療の現場で医療機器を操作・管理を行う医療職種です。

遠隔医療やロボット医療が進んでいく医療の現場において、本学臨床工学専攻の育成するICTを理解した臨床工学技士はより重要な役割を担っていきます。

4年次から始まる週に2回の資格対策講習では、つまづきがちな問題に重点的に取り組めたのに加え、先生が丁寧に対応してくださってとても心強かったです。

今後のタスクシフト※にしっかり対応できるよう、早く実践力を身につけて周りに頼られる臨床工学技士になりたいです。

※医師の業務の一部を他の医療職に分担すること



医療情報学科
臨床工学専攻
にし 秀琉さん
2023年3月卒業
市立室蘭総合病院
内定



学内講演会にて、ゲストスピーカーから最新の医療機器について学ぶ様子



資格対策講習にて勉強に励む様子

アンプレ

HIU ENTREPRENEURSHIP CENTER

アントレプレナーシップセンタープレゼンツ

学生チャレンジプログラム始動!

「アントレプレナーシップ(アンプレ)」とは

近年ニュース等でも目にするようになってきた「アントレプレナーシップ」という言葉。これは、“自ら社会の課題を発見し、周囲のリソースや環境の制限を超えて行動を起こし、新たな価値を生み出していく精神”※を意味し、それを備えた人材を育成するための教育を「アントレプレナーシップ教育(通称:アンプレ教育)」と呼んでいます。

※ 創業手帳「文部科学省 | 日本の課題を解決するために「アントレプレナーシップ教育」[大学発スタートアップ創出]を推進(2022年10月31日)」から抜粋
(<https://sogyotecho.jp/mext/>)

本学アントレプレナーシップセンターの新たな試みとして、学生の挑戦したい気持ちを応援する事業「学生チャレンジプログラム」が始動しました。

本プログラムは、日ごろから何かに挑戦したい気持ちやアイデアを抱えつつも、具体的な進め方で迷っていたり、費用の面から挑戦を諦めざるを得なかった学生を応援する事業です。

具体的なアイデアを基に応募の上、プレゼンテーションを経て採択されたプロジェクトには、大学から最大10万円の実施費用補助があるほか、企画から実施までを教職員が二人三脚で支援します。

なお、応募されるプロジェクトは、右記の活動テーマのいずれかを満たしている必要があり、かつ、プロジェクトは2名以上のチームで活動することを義務付けています。これは、より学内の所属を超えた連携を促し、協調性やマネジメント能力も同時に育むことを狙っています。



活動テーマ

- 1 自身の日頃の研究成果をもとにさらに応用・発展させるもの
- 2 地域課題解決や地域との交流を目的とするもの
- 3 企業や団体との連携を通じてICTや専門技術向上に資するもの
- 4 情報大ブランドアップに貢献するもの

また、学生の様々な“やる気”の形を応援するため、次の3つのエントリー枠を設けています

チームエントリー

プロジェクトの内容や実施メンバーが決定している

企画エントリー

企画はあるが、一緒に活動する仲間が欲しい

スキルエントリー

採択されたプロジェクトにメンバーとして参加したい



下記、企画エントリーであるプロジェクトNo.2とNo.3に対しては、チームメンバー募集のためスキル応募者との個別マッチング会を開催し、チーム形成を行いました。

初回となる今年は、チームエントリー4件、企画エントリー6件、スキルエントリー9件の、合計19件の応募がありました。その後、チームエントリーと企画エントリー応募者による熱の入ったプレゼンテーションが繰り広げられ、厳正な審査の上最終的に以下の3プロジェクトが採択されました。

その後、採択プロジェクトメンバー向けにオリエンテーションと研修会を開催し、各プロジェクトとも、実施に向けて本格的に始動しました。活動は2023年度いっぱい、終了後には成果報告会を開催する予定です。

Project No.1



インスタレーションプロジェクト【チームエントリー】

たなだ はやと
棚田 隼斗 (情報メディア学科3年)

子どもの感性や創造力を刺激する「音×○○」をテーマとしたインスタレーション(=展示空間を含めた美術・芸術作品)を札幌市内で展示する。

この展示をきっかけにして、子どもたちが将来本学に興味を持ってくれることも期待している。

Project No.2



短編映画『君と僕が有る意味は一言』制作プロジェクト【企画エントリー】

たかはし いっぺい
高橋 一平 (情報メディア学科2年)

追い詰められている人は誰もが自分の苦しみを他人に伝えられるわけではないこと、元気に振舞っている人もどこかで苦しんでいるかもしれないことを伝える短編映画制作。

2人の高校生に焦点を当て、「死」そのものや、主人公が「死」をどう捉え、またどう生きていくかを表現する。

Project No.3



狸小路クイズラリープロジェクト【企画エントリー】

まつなが なつま
松長 捺真 (情報メディア学科1年)

狸小路商店街など、不況に苦しむ地域の商店街を、クイズラリーを通して活性化することを目指す。

北海道には、日本各地や海外から多数の観光客が来ているが、地域や、商店街の魅力が十分に伝わっておらず、有名なお店にしか人が集まらない。そんな現状を打破したい。



令和4年度 学位記授与式・入学式 挙行

令和4年度学位記授与式及び令和5年度入学式は、
4年ぶりに全教員及び保護者の方々にもご列席いただき、松尾記念館講堂にて挙行了しました。
今回もグループ会社のメディア教育センター協力の元、YouTube 配信を行いました。

令和4年度 学位記授与式

— 令和5年3月17日(金) —

卒業生・修了生代表への学位記授与、学長告辞、理事長祝辞(代読)、成績優秀者への賞状授与等の後、卒業生・修了生を代表して答辞を述べた山本 絵里さん(医療情報学科)からは、コロナ禍での大学生活を振り返り、苦労や葛藤がある中で努力をし続け、目標としていた国家試験に無事合格できたのは、サポートしてくださった先生方や助け合った仲間のおかげである、と感謝の言葉がありました。

式終了後には集合写真撮影と学科別学位授与を行い、学生一人ひとりに手渡して学位記を授与しました。



令和5年度 入学式

— 令和5年4月6日(木) —

1,155名(通信教育部含む)が北海道情報大学生としての学生生活をスタートしました。

学長告辞で西平 順学長から入学生へ、積極的に学業やサークル活動へチャレンジして自分を磨き、どのような難題に直面しても、成し遂げたいという強い想いを持って自身の未来を切り拓くよう激励の言葉がありました。理事長祝辞(代読)、教員紹介等の後、入学生を代表して吉田 泰輝さん(情報メディア学科)から宣誓の言葉があり、閉式となりました。

式終了後には、建学の理念や本学の歴史・教育環境などをまとめた映像「未来の先駆けへ」の上映、学科別ミーティングを行い、スタートアッププログラム初日を終わりました。



新任教員の

ご紹介

NEW TEACHERS
今年度は2名の教員が
新たに着任しました。

医療情報学部 医療情報学科

特任講師 加澤 雅裕

研究分野 英語教授法
英文学

道立高校を定年退職して、4月から本学でお世話になることになりました。英語教員として自己の授業改善はもとより小中高大の発達段階に応じた効果的な英語教育について研鑽を深めたいと考えております。

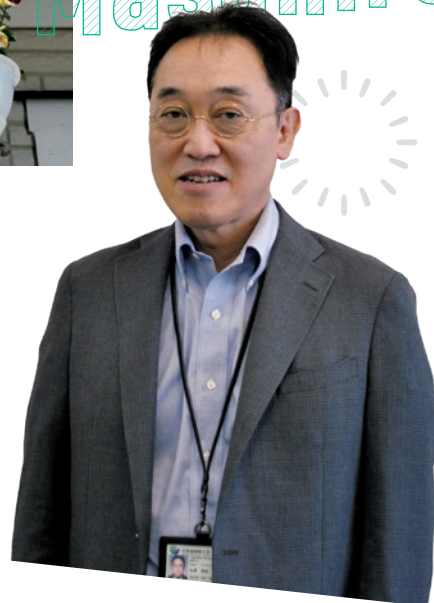
10数年ぶりに自宅から江別まで電車通勤をしています。当時とほぼ同時刻の電車ですが、白石、森林公園、大麻などでの乗降風景も変わらず懐かしい思いを感じ、10数年若返った気持ちを胸に気合いを入れて野幌駅で下車します。そうは言っても時間が流れるのは早いもので、4月には自分に初孫(双子)ができたこともあり、この10数年間の自分の身の回りの変化を、変わらぬ車窓からの風景を楽しみながら自分なりに整理する時間としています。

自宅の玄関先や庭に花を飾って楽しむこと(ガーデニングと呼べるほどではない)を趣味としていますが、この春は気持ちに余裕がなくこれまでの仕事関係の物の整理で終わってしまい、花までは手が回りませんでした。来年こそは頑張りたいと思っています。



玄関先に花を飾る

KAZAWA
Masahiro



CHIKAZAWA
Jun

情報メディア学部 情報メディア学科

講師 近澤 潤

研究分野 デザイン思考、コンテンツデザイン、プロジェクト型学習(PBL)、UI/UXデザイン、地域・産学連携、教育工学

私は、サービスデザイン・デザイン思考・プロジェクト型学習などに関して研究・活動しています。鉄道会社での実務経験も踏まえ、学生たちにはより実践的・主体的な学びの場を提供し、共に活動・成長してまいりたいと思っています。

私は年に一度、5泊以上の行程を組んで旅行に行っています。歴史・文化に対して興味があり、旅先では城郭や寺社・仏閣、伝統工芸関係先によく足を運ぶほか、地域の方や生産者の方とお話をして、そこでしかできない体験を大切にしています。そのため、事前に旅行会社のパンフレットのように行程表を細かく作成して、現地では1秒も無駄にせず効率的に観光できるよう心がけています。現在は国内中心ではありません

が、ゆくゆくは海外にも赴き、自身の見聞を広めたいと思っています。

10年前、私は本学の情報メディア学部を卒業しました。当時、お世話になった教職員の皆様をはじめ、皆様と共に取り組めること大変嬉しく思います。愛着のある校舎で、後輩たちの育成と研究に励みます。若輩者ではございますが、今後の未来を担う後輩たちを育て、共に楽しみながら学ぶという思いは誰にも負けません。



喜びの杵築城(大分県)



某北海道ローカル番組で話題の姫だるま(大分県)

学校法人 電子開発学園 令和4年度決算の概要

令和4年度決算が理事会ならびに評議員会で承認されましたので、その概要についてお知らせいたします。

学校法人会計の計算書類は、資金繰りの状態を示す「資金収支計算書」、経営状態を示す「事業活動収支計算書」、財政状態を示す「貸借対照表」により表示し、私立学校法第47条および学校法人会計基準第4条に定められた規則に基づき作成したものです。

1. 資金収支計算書

令和4年度の収支状況を資金収支計算書により資金の流れを予算と決算で比較します。

(1) 収入の部

学生生徒等納付金収入で2百万円増加、手数料収入で4百万円増加、寄付金収入で3百万円増加、補助金収入で44百万円増加、付随事業・収益事業収入で1億59百万円増加、受取利息・配当金収入で1百万円増加、雑収入で2百万円減少、学費前受金収入で18百万円減少、その他の収入で14百万円増加し、収入の部合計は117億97百万円となりました。

(2) 支出の部

人件費で9百万円減少、教育研究経費及び管理経費で48百万円増加、施設関係支出で80百万円増加、設備関係支出で8百万円減少、資産運用支出で24百万円減少、その他の支出で4百万円増加しました。翌年度繰越支払資金は65億64百万円で66百万円増加し、支出の部合計は117億97百万円となりました。

2. 事業活動収支計算書

令和4年度の事業活動状況を事業活動収支計算書により「教育活動収支」、「教育活動外収支」、「特別収支」の3つの事業活動に区分し、それぞれの収支状況を予算と決算で比較します。

〔教育活動収支〕

(1) 収入の部

学生生徒等納付金で2百万円増加、手数料で4百万円増加、寄付金で3百万円増加、経常費等補助金で44百万円増加、付随事業収入で1億59百万円増加、雑収入で3百万円減少し、収入合計は52億40百万円で、2億8百万円増加となりました。

(2) 支出の部

人件費で15百万円減少、教育研究経費及び管理経費で46百万円増加、徴収不能額等で12百万円減少し、支出合計は44億83百万円で、20百万円増加となりました。「教育活動収支差額」は7億56百万円で、1億89百万円増加となりました。

〔教育活動外収支〕

- (1) 教育活動外収入計は、受取利息・配当金の89百万円で1百万円増加となりました。
- (2) 教育活動外支出計は、借入金等利息の6百万円となりました。「教育活動外収支差額」は83百万円で、1百万円増加となりました。「経常収支差額」は8億39百万円で、1億90百万円増加となりました。

〔特別収支〕

- (1) 退職給与引当金の取崩による過年度修正額が43百万円増加、特別収入計は51百万円で、43百万円増加となりました。
- (2) 資産処分差額が5百万円増加、特別支出計は16百万円で、5百万円増加となりました。「特別収支差額」は35百万円で、37百万円増加となりました。

「基本金組入前当年度収支差額」は8億74百万円で2億27百万円増加となりました。「基本金組入額合計」は1億54百万円で1億35百万円減少となりました。「当年度収支差額」は7億21百万円で3億62百万円増加となりました。「翌年度繰越収支差額」は20億99百万円で3億62百万円増加となりました。

3. 貸借対照表

令和4年度の財政状態を貸借対照表により本年度末と前年度末で比較します。

(1) 資産の部

合計で175億89百万円と前年度末対比で9億35百万円増加しました。「固定資産」は主に建物が大学及び専門学校のエレベーター改修工事、大学の厚生棟改修工事等で1億34百万円増加、大学及び専門学校のエレベーター等の除却で3百万円減少、減価償却額で1億78百万円減少しました。構築物は大学の駐車場増設工事で4百万円増加、減価償却額で7百万円減少しました。教育研究用機器備品は大学の新生用ノートPC、教室用プロジェクター、PC、机・椅子等、専門学校の実習室ノートパソコン等の備品購入で1億22百万円増加、大学の実習室パソコン等、専門学校の教室のパソコン等の除却で3百万円減少、減価償却額で1億28百万円減少しました。管理用機器備品はパソコン等で1百万円増加、減価償却額で6百万円減少しました。図書は書籍購入等で6百万円増加、除却で5百万円減少しました。第2号基本金引当特定資産は50百万円増加、退職給与引当特定資産は2百万円減少しました。ソフトウェアは財務システムの入替により11百万円増加、減価償却額で31百万円減少しました。これにより固定資産合計107億41百万円で4億64百万円増加となりました。「流動資産」は68億47百万円で4億71百万円増加し、主に現金預金が3億21百万円増加となりました。

(2) 負債の部

合計で27億67百万円と前年度末対比で60百万円増加しました。「固定負債」はeDCタワー等の長期借入金で42百万円減少、退職給与引当金が44百万円減少、長期末払金が26百万円減少し、合計1億11百万円減少となりました。「流動負債」は未払金が1億38百万円増加、学費前受金が22百万円増加し、合計1億71百万円増加となりました。

(3) 純資産の部

合計で148億22百万円と前年度末対比で8億74百万円増加しました。「基本金」は127億23百万円で固定資産のうち継続的に保持すると判断されるものの額を示す第1号基本金の組入額が1億4百万円増加、将来取得する固定資産の取得に充てる資産の額である第2号基本金の組入が50百万円増加しました。

1. 資金収支計算書 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

収入の部 (単位:円)			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	4,075,020,000	4,077,270,400	△2,250,400
手数料収入	39,707,000	43,866,440	△4,159,440
寄付金収入	3,177,000	6,028,000	△2,851,000
補助金収入	579,018,000	623,185,414	△44,167,414
国庫補助金収入	436,573,000	479,197,900	△42,624,900
地方公共団体補助金収入	142,445,000	143,987,514	△1,542,514
資産売却収入	200,000,000	200,180,000	△180,000
付随事業・収益事業収入	288,304,000	446,915,439	△158,611,439
受取利息・配当金収入	87,451,000	88,592,010	△1,141,010
雑収入	44,905,000	42,646,033	2,258,967
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	1,452,245,000	1,434,034,377	18,210,623
その他の収入	249,548,000	263,058,852	△13,510,852
資金収入調整勘定	△1,478,227,000	△1,671,887,032	193,660,032
前年度繰越支払資金	6,242,743,000	6,242,743,015	△15
収入の部合計	11,783,891,000	11,796,632,948	△12,741,948

支出の部 (単位:円)			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	1,773,427,000	1,764,335,932	9,091,068
教育研究経費支出	1,696,952,000	1,740,439,893	△43,487,893
管理経費支出	602,255,000	607,038,801	△4,783,801
借入金等利息支出	5,635,000	5,634,714	286
借入金等返済支出	41,661,000	41,660,000	1,000
施設関係支出	57,835,000	137,805,724	△79,970,724
設備関係支出	147,742,000	139,769,323	7,972,677
資産運用支出	778,632,000	754,900,510	23,731,490
その他の支出	652,737,000	656,977,208	△4,240,208
資金支出調整勘定	△470,282,000	△615,472,177	145,190,177
翌年度繰越支払資金	6,497,297,000	6,563,543,020	△66,246,020
支出の部合計	11,783,891,000	11,796,632,948	△12,741,948

活動区分資金収支計算書 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

			(単位:円)	
科目			金額	
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	4,077,270,400	
		手数料収入	43,866,440	
		特別寄付金収入	4,629,000	
		一般寄付金収入	997,000	
		経常費等補助金収入	617,426,414	
		付随事業収入	446,915,439	
		雑収入	41,891,105	
		教育活動資金収入計	5,232,995,798	
	支出	人件費支出	1,764,335,932	
		教育研究経費支出	1,740,439,893	
管理経費支出		602,820,070		
教育活動資金支出計		4,107,595,895		
差引	1,125,399,903			
調整勘定等	△62,267,648			
教育活動資金収支差額	1,063,132,255			
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備寄付金収入	402,000	
		施設設備補助金収入	5,759,000	
		施設設備売却収入	180,000	
		施設整備等活動資金収入計	6,341,000	
	支出	施設関係支出	137,805,724	
		設備関係支出	139,769,323	
		第2号基本金引当特定資産繰入支出	50,000,000	
	施設整備等活動資金支出計	327,575,047		
	差引	△321,234,047		
	調整勘定等	41,536,196		
施設整備等活動資金収支差額	△279,697,851			
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	783,434,404			

			(単位:円)	
科目			金額	
その他の活動による資金収支	収入	有価証券売却収入	200,000,000	
		退職給与引当特定資産取崩収入	6,402,966	
		その他の収入	163,285,739	
		小計	369,688,705	
	受取利息・配当金収入	88,592,010		
		過年度修正収入	754,928	
		その他の活動資金収入計	459,035,643	
	支出	借入金等返済支出	41,660,000	
		有価証券購入支出	700,000,000	
		退職給与引当特定資産繰入支出	4,900,510	
その他の支出		154,391,914		
小計		900,952,424		
借入金等利息支出	5,634,714			
	過年度修正支出	4,218,731		
	その他の活動資金支出計	910,805,869		
差引	△451,770,226			
調整勘定等	△10,864,173			
その他の活動資金収支差額	△462,634,399			
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	320,800,005			
前年度繰越支払資金	6,242,743,015			
翌年度繰越支払資金	6,563,543,020			

2. 事業活動収支計算書 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位:円)

科目		予算	決算	差異
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	4,075,020,000	4,077,270,400	△2,250,400
	手数料	39,707,000	43,866,440	△4,159,440
	寄付金	2,910,000	5,626,000	△2,716,000
	経常費等補助金	573,259,000	617,426,414	△44,167,414
	国庫補助金	430,814,000	473,438,900	△42,624,900
	地方公共団体補助金	142,445,000	143,987,514	△1,542,514
	付随事業収入	288,304,000	446,915,439	△158,611,439
	雑収入	52,038,000	48,588,785	3,449,215
	教育活動収入計	5,031,238,000	5,239,693,478	△208,455,478
	事業活動支出の部	人件費	1,784,096,000	1,769,503,922
教育研究経費		2,003,260,000	2,047,533,392	△44,273,392
管理経費		644,911,000	646,455,755	△1,544,755
徴収不能額等		31,553,000	20,001,000	11,552,000
教育活動支出計		4,463,820,000	4,483,494,069	△19,674,069
教育活動収支差額	567,418,000	756,199,409	△188,781,409	

(参考)

(単位:円)

事業活動収入計	5,127,286,000	5,379,677,431	△252,391,431
事業活動支出計	4,480,148,000	4,505,220,765	△25,072,765

(単位:円)

科目		予算	決算	差異
教育活動外収支	事業収入の活動部	87,451,000	88,592,010	△1,141,010
	受取利息・配当金	0	0	0
	その他の教育活動外収入	87,451,000	88,592,010	△1,141,010
	事業支出の活動部	5,635,000	5,634,714	286
	借入金等利息	0	0	0
その他の教育活動外支出	5,635,000	5,634,714	286	
教育活動外収支差額	81,816,000	82,957,296	△1,141,296	
経常収支差額	649,234,000	839,156,705	△189,922,705	
特別収支	科目	予算	決算	差異
	事業収入の活動部	0	68,201	△68,201
	資産売却差額	8,597,000	51,323,742	△42,726,742
	その他の特別収入	8,597,000	51,391,943	△42,794,943
	事業支出の活動部	6,534,000	11,873,251	△5,339,251
	資産処分差額	4,159,000	4,218,731	△59,731
	その他の特別支出	10,693,000	16,091,982	△5,398,982
	特別支出計	△2,096,000	35,299,961	△37,395,961
	特別収支差額	647,138,000	874,456,666	△227,318,666
	基本金組入前当年度収支差額	△288,931,000	△153,955,033	△134,975,967
基本金組入額合計	358,207,000	720,501,633	△362,294,633	
当年度収支差額	1,378,534,000	1,378,534,455	△455	
前年度繰越収支差額	1,736,741,000	2,099,036,088	△362,295,088	

3. 貸借対照表 令和5年3月31日

資産の部

(単位:円)

科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	10,741,494,655	10,277,624,657	463,869,998
有形固定資産	6,483,643,992	6,546,741,684	△63,097,692
土地	1,725,516,149	1,725,516,149	0
建物	3,815,461,123	3,862,429,350	△46,968,227
構築物	72,964,043	75,827,127	△2,863,084
教育研究用機器備品	359,995,086	369,212,058	△9,216,972
管理用機器備品	40,771,787	45,565,772	△4,793,985
図書	464,525,003	464,618,581	△93,578
車両	4,410,801	3,572,647	838,154
特定資産	578,882,991	530,385,447	48,497,544
第2号基本金引当特定資産	250,000,000	200,000,000	50,000,000
退職給与引当特定資産	328,882,991	330,385,447	△1,502,456
その他の固定資産	3,678,967,672	3,200,497,526	478,470,146
ソフトウェア	148,243,643	168,280,957	△20,037,314
有価証券	3,000,000,000	2,500,000,000	500,000,000
長期預金	500,000,000	500,000,000	0
その他の固定資産	30,724,029	32,216,569	△1,492,540
流動資産	6,847,029,735	6,376,068,476	470,961,259
現金預金	6,563,543,020	6,242,743,015	320,800,005
未収入金	241,144,095	94,684,877	146,459,218
その他の流動資産	42,342,620	38,640,584	3,702,036
資産の部合計	17,588,524,390	16,653,693,133	934,831,257

負債の部

(単位:円)

科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	607,184,477	718,184,594	△111,000,117
長期借入金	249,960,000	291,620,000	△41,660,000
退職給与引当金	328,882,991	372,609,300	△43,726,309
長期未払金	28,341,486	53,955,294	△25,613,808
流動負債	2,159,355,911	1,987,981,203	171,374,708
短期借入金	41,660,000	41,660,000	0
未払金	630,822,339	492,917,129	137,905,210
前受金	1,434,034,377	1,411,790,667	22,243,710
預り金	52,839,195	41,613,407	11,225,788
負債の部合計	2,766,540,388	2,706,165,797	60,374,591

純資産の部

(単位:円)

科目	本年度末	前年度末	増減
基本金	12,722,947,914	12,568,992,881	153,955,033
第1号基本金	12,169,947,914	12,065,992,881	103,955,033
第2号基本金	250,000,000	200,000,000	50,000,000
第4号基本金	303,000,000	303,000,000	0
繰越収支差額	2,099,036,088	1,378,534,455	720,501,633
翌年度繰越収支差額	2,099,036,088	1,378,534,455	720,501,633
純資産の部合計	14,821,984,002	13,947,527,336	874,456,666
負債及び純資産の部合計	17,588,524,390	16,653,693,133	934,831,257

北海道情報大学教育研究振興募金のお願い

本学では、グローバル人材育成活動、学生支援、教育研究支援、地域連携活動、教育施設・設備整備を遂行する資金確保を目的として「北海道情報大学教育研究振興募金」の募集を行っております。本募金の趣旨にご賛同いただける場合は、ご支援ご協力をお願いいたします。



北海道情報大学教育研究振興募金

検索

江別市ふるさと納税を活用した市内高等学校及び大学の支援について

令和4年7月27日より、江別市ふるさと納税の寄附先メニューにて「北海道情報大学」を選択して寄附ができるようになりました。納められた寄附金額の一部は、本学の教育環境の充実のため、活用されます。



江別市ふるさと納税 情報大

検索

09

2023

- ～2日(土) 追再試験期間
- ～20日(水) 夏季授業休業期間
- 21日(木) 後期スタートアッププログラム
- 22日(金) 後期 授業開始

10

2023

- 6日(金) 授業休講
- 7日(土)～8日(日) 蒼天祭
- 14日(土) 月曜授業日

11

2023

- 3日(金) 通常授業日
- 17日(金) 後期前半 授業終了
- 20日(月) 後期後半 授業開始
- 23日(木) 通常授業日

12

2023

- 26日(火)～ 年末年始授業休業期間

01

2024

- ～8日(月) 年末年始授業休業期間
- 27日(土)、29日(月) 合同試験日
- 30日(火)～ 春季授業休業期間

02

2024

- 2日(金)～3日(土) 一般1期入試
- 8日(木)～14日(水) 冬期集中授業期間
- 15日(木)～17日(土) 19日(月)～21日(水)
後期追再試験期間

03

2024

- 15日(金) 学位記授与式

今回の表紙写真は、学生実行委員会の皆様です！撮影は、毎度おなじみ大学広報チームです。撮影部隊の職員はまるで我が子の写真を撮るかのような笑顔です(笑)

6月に開催した体育祭も5年ぶりのジンギスカン交流会も大盛況で終わることができ、次は10月の大学祭です！これからも学生実行委員会の皆様の活躍、楽しみにしています！



大学広報プロジェクトメンバー

あんばいたかし おだしま けいた きのした あつし
 安倍 隆 / 小田島 敬太 / 木下 篤史
 さとう まみこ なかみち だいき にたとり かつま
 佐藤 真美子 / 中道 大樹 / 似鳥 克馬
 はさお りゅうとく
 波佐尾 隆徳

「ななかまど」バックナンバーは
 大学Webサイトでご覧いただけます。

情報大 ななかまど

検索





北海道情報大学

〒069-8585 北海道江別市西野幌 59-2
TEL: 011-385-4411 (代表)



大学公式 SNS



YouTube

大学の紹介や学生作品などを
アップしています！



Facebook

大学内外の活動の様子を
発信しています！



Instagram

魅力あふれるキャンパスの
様子などをお届けします！



X (Twitter)

高校生向けのイベントや
入試情報を発信しています！

発行 北海道情報大学

編集 北海道情報大学 大学広報プロジェクト

デザイン 絵と字